

おづみんがうまれた
泉大津のこと
してる？



Amnis
あむにす

泉大津市文化財ニュース
Vol.1 2014 September
特集 泉穴師神社



■ 56年ぶり！
泉穴師神社の保存修理事業が
始まります！

- 平成の大修理計画
- 泉穴師神社の歴史
- 泉穴師神社の指定文化財
- 阿弥陀寺の年中行事（上）

56年ぶり！泉穴師神社の保存修理事業が始まります！

平成の大修理計画

事業内容	重要文化財 建造物 3 殿の保存修理事業
名称	いずみあなしじんじゃほんでん 泉穴師神社本殿 いずみあなしじんじゃせつしやくあがじんじゃほんでん 泉穴師神社摂社春日神社本殿 いずみあなしじんじゃせつしやくあやしみよしじんじゃほんでん 泉穴師神社摂社住吉神社本殿
事業主	宗教法人 泉穴師神社 宮司 津守 康有
設計監理	公益財団法人 文化財建造物保存技術協会
工事請負	谷上社寺工業株式会社



3 殿とも屋根は檜皮葺ひわだぶきですが前回の葺き替えより、本殿は 35 年、春日神社・住吉神社は 56 年が経過しており、著しい破損がみられ、また社殿の彩色にも多くの剥落がみられることから、本格的な修理を行うことになりました。準備期間を経て、9 月から本格的に着工します。修復の様子を見学できる現地説明会や関連講座なども随時行っていく予定です。

修理の内容 屋根葺替修理・部分修理及び塗装修理

(檜皮葺屋根の全面葺替、壁板・高欄親柱の修理、飾金物の修理、軒内床土間叩きの修理、丹塗、胡粉塗、黄土塗等、彩色の塗替・補修・剥落止め、彩色部分の見取り図作成)

事業期間 平成 26 年 6 月～平成 28 年 (予定)

事業費 1 億 5690 万円 (国・泉大津市・泉穴師神社)

泉穴師神社の歴史

泉大津市豊中町 1 丁目におよそ 13,000 m²の社域を有し、650 年ごろに建てられたと伝えられている歴史のある神社です。

「穴師」は古語では「あなじ」「あなせ」と言い、戌亥の方角から吹く風、つまり北西風を意味します。北西風はこの地域の浜風で、船乗りは「この風が吹くと海が荒れる」と言い恐れたそうです。神社から海岸までは、かつて「勅使道ちやくしみち」と呼ばれた道が真っ直ぐにのびており、古代に栄えた港 (小津の泊) とつながっていたと考えられています。

「穴師」の呼称が確認できる最古の文献資料は、天平 10 年 (738) に書かれた『和泉監正税帳いずみのげんしょうぜいちょう』です。これは、和泉国にあった天皇の離宮「和泉宮」を管理する機関「和泉監いずみのげん」に納められた租税の出納帳です。天平 8 年 (736) に「穴師神戸税かんべせい 穎稻えいとう 3927 束 6 把 3 分を祭神料としておさめた」と書かれています。

また、『延喜式』(平安時代中期 (927) に編さん) に記載されている延喜式内社です。延喜式にはほかにも、新羅からの使にふるまう神の酒を作る稲を負担した神社としても記載があり、古代において、朝廷に関わりの深い重要な神社の一つだったことがわかります。

中世には和泉五社 (大鳥・穴師・聖・積川・大井関おおいげき) の二宮とされて勢力を誇りました。この五社制度を象徴する祭りとして、「飯の山神事いのやましんじ」があります。本来は秋祭りの際に和泉五社それぞれの神輿の上に飯 (白米一斗八升・もち米五升を炊いたもの) を盛り付けた「飯の山」をのせ、総社である泉井上神社へ渡るという和泉五社と総社の六社全体の祭礼でおこなわれていた神事でした。天正年間 (1573～1592) に衰退し、五社祭礼が廃絶してしまいましたが、泉穴師神社の祭礼に受け継がれて現在に至っています。

境内には数多くの建物があります。そのうち今回修理される本殿、摂社住吉神社本殿、摂社春日神社本殿の3殿は国の重要文化財に指定されています。なかでも摂社住吉神社本殿は、文永十年（1273）と書かれた鎌倉時代の棟木が残されており、府内でも最も古い神社建築のひとつです。本殿は桃山時代に兵災により焼失しましたが、慶長7年（1602）に豊臣秀頼が片桐且元を奉行として改築を行ったものです。摂社春日神社も同時期の建築と考えられます。3殿のいずれも後の時代の修復跡が一部にみられますが、室町建築・桃山建築の風格を持った美しい社殿です。

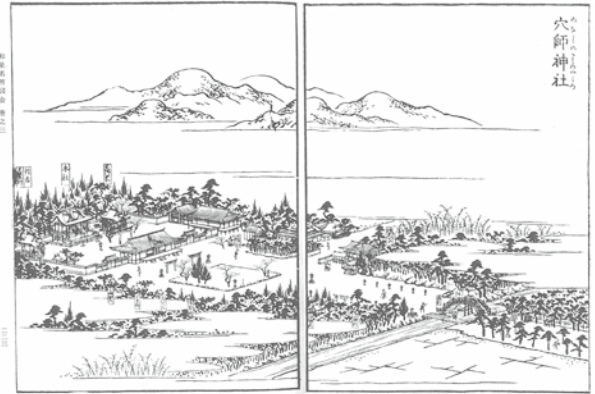
拝殿も慶長頃の建立で、その前には2基の石鳥居が並んでいます。2基の鳥居が並ぶのは府内でも類例が少なく、珍しい形式です。祭神は天忍穂耳命あめのおしほみのみこと・栲幡千々姫命たくはたちひめのみことです。特に栲幡千々姫命は織物の神であることから、繊維産業の盛んな泉大津市では、厚い信仰の対象となっています。

豊かな神社の杜もりには高さ20～33mに達するクスノキが12本あります。これらクスノキ大木群は市の指定天然記念物に指定され、クスノキ大木群のうち1本とオガタマノキは市環境保全条例に基づき保護樹木に指定されています。この神社の景観は江戸時代から大きな変化はなく、往時の姿を色濃くとどめています。

泉穴師神社 拝殿



和泉名所図絵 卷之三



泉穴師神社の指定文化財

種別	名称
国指定重要文化財 建造物	泉穴師神社本殿 附 棟札5枚
国指定重要文化財 建造物	泉穴師神社摂社 春日神社本殿 附 棟札1枚
国指定重要文化財 建造物	泉穴師神社摂社 住吉神社本殿 附 棟札2枚
国指定重要文化財 彫刻	木造天忍穂耳命坐像
国指定重要文化財 彫刻	木造栲幡千々姫命坐像
国指定重要文化財 彫刻	木造男神坐像
国指定重要文化財 彫刻	木造女神坐像
府指定有形文化財 彫刻	泉穴師神社 木造男女神像群 (75 軀)
府指定有形文化財 工芸品	泉穴師神社 太鼓
市指定有形文化財 建造物	泉穴師神社 拝殿 附石鳥居
市指定天然記念物	泉穴師神社 クスノキ大木群

阿弥陀寺の年中行事(上)

丹農 秀知 たんのう しゅうち

(泉大津市文化財保護委員。昭和37年(1962)～平成10年(1998)まで36年間、阿弥陀寺の住職を務め、現在は高石市の専称寺の住職。)

阿弥陀寺のおこり

阿弥陀寺は泉大津市下之町にある浄土宗寺院で、地元では「あみだいじさん」と呼ばれています。

安土桃山時代には、現在はなくなってしまった極楽寺と呼ばれる寺院の境内(式内町と昭和町)にあり、現在の式内町に残る粟神社跡が、かつて阿弥陀寺が存在していた場所だと伝わっています。極楽寺があったと伝わる場所から「阿弥陀」の文字の彫った瓦が見つまっていることから、阿弥陀寺が極楽寺の内にあったことがうかがえます。阿弥陀寺はかつて真言宗根来寺の末寺でしたが、織田信長による紀州攻めの際に戦火に巻き込まれたといわれます。戦火により亡くなる人が多かったため横山家(下之町の庄屋)や藤林家(高津町の旧家)などの檀家が協力し、現在の下之町に浄土宗に改宗し移転しました。現在、粟神社跡の碑に名前のある下市さんや横山さんは、阿弥陀寺が粟神社の別当職であった時代からの檀家さんです。この粟神社跡の付近にかつての阿弥陀寺が存在していたと伝わります。

阿弥陀寺は、板原地区のように一村一寺のお寺ではありません。檀家は寺の近くの下之町、上之町が比較的多いものの、式内町、高津町、東港、昭和町、東雲町、西之町(現西港町)、神明町、など、市内全体に及びます。主に南海電鉄の線路より海側で檀家が多いです。市外にも檀家があり、総数は400軒ほどになります。

修正会

大晦日から正月にかけて行います。私が住職の頃は、大晦日の夜12時を過ぎると正月に入るので、新年が安楽な平和な年になりますようにと法要を勤めました。

花祭り

花祭りはお釈迦さんの誕生日である4月8日にちなんで、泉大津商工会議所が主催する商工祭がおこなわれる4月3日に実施していました。主催は「同和会」の8か寺で、お稚児さんの行列が町内を練り歩く「釈尊降誕稚児練り供養」をしました。*

現在、会議所が行っている商工祭は「毛布まつり」に改称され、11月の開催になりましたが、花まつりは商工祭とは別に4月の第一日曜日に日を変え現在も行われています。8か寺が毎年交代で当番をし、出発寺院と到着寺院を決めて、そこで甘茶かけをします。お稚児さんは、新聞4社(毎日・産経・読売・朝日)に折込チラシを入れてもらい、旧大津地域で募集しています。

*同和会は、旧大津の線路下(海側)の寺が宗派を超えてつくった会です。真言1、浄土3、西本願寺2、東本願寺1、日蓮1の8か寺が、泉大津商工会議所ができて商工祭がはじまったころに「旧大津の檀家がみんな近くにあるから仲良くやっぺいこう」ということで「同和会」という組織をつくりました。かつては月1回寄合を開いて花まつりなどの行事に取り組みました。現在では「泉大津寺院連合会」と称しています。

授戒

檀家に戒律と戒名を授けるための儀式行事です。五重相伝がない年の5月に実施します。日常生活の心の持ち方を5日間説くものです。実施時間は午前8時～午後5時までです。

五重相伝(ゴジュソウデン)

浄土宗の信仰の真髄を伝え、戒名を授与する儀式・行事です。授戒がない年の5月に実施します。略して「おじゅ」といいます。初重、二重、三重、四重、五重とあり、6日間行われます。実施時間は午前8時～午後5時までです。

阿弥陀寺での授戒と五重相伝

授戒も五重相伝は、阿弥陀寺、来迎院、安楽寺の近隣の浄土宗3か寺で手伝いあって、交互に行っていました。毎年、授戒か五重相伝を3か寺いずれかの寺院で行うため、結果的に、授戒の当番が6年に1回、五重の当番が6年に1回まわってきます。授戒や五重相伝の開催は、寺から上部組織である泉北組へ進達し、泉北組からさらに大阪教区(教務所)を経て浄土宗の宗務庁へ決裁を仰ぎます。

阿弥陀寺の年中行事(1月～6月)

- 1月1日 修正会(大晦日～元日)
- 1月 御忌法要
(1月25日に亡くなった法然上人の忌日法要)
- 2月 なし。2月15日が涅槃なので、涅槃会をしたこともあった。
- 3月 彼岸(お説教がある)
- 4月 花まつり
- 5月 授戒または五重相伝

編集後記

◆泉大津市で1か所しかない重要文化財建造物の修復が50年ぶりに行われるこの年に、Amnisを創刊できることは望外のよさびです。よりよい紙面をつくっていきましょう。(村)
◆不定期発行の情報紙ですが、文化財ってこんなにステキ!というキモチを少しでもみなさんに伝えられたらいいなと思っています。(奥)

Amnis Vol.1 2014 September

発行 泉大津市文化財保護委員会
協力 泉大津市教育委員会
泉大津市東雲町9番12号



Amnis (アムニス)

ラテン語で海流という意味です。文化財の情報が、市民の皆さんに海流のように流れていきますように・・・という願いを込めて。